

令和7年度第3回岐阜市立新大学準備委員会 議事概要

【日 時】 令和7年10月30日（木）13時00分～15時00分

【場 所】 岐阜市役所10階 10-2会議室

【出 席 者】

(委 員) 杉山 誠委員長、廣田 孝昭副委員長、小野 悟委員、

河野 廉委員、大田 康雄委員

<オンライン参加>

斎尾 直子委員（途中退席）、吉田 俊介委員

<欠席>

中田 晃委員

(オブザーバー) 伊藤女子短期大学事務局長、若山企画部長、田中企画部大学改革推進参与

(事務局) <企画部>

小川総合政策課大学改革推進室主幹 他

<女子短期大学事務局>

藤田総務管理課長、大西総務管理課新大学設置準備室長 他

1 議事

○杉山委員長

それでは次第に従って議事に入りたいと思います。

最初に議事（1）の今後のスケジュールについて、事務局の方から説明をお願いします。

◆今後のスケジュールについて

(事務局から資料に基づき説明)

○杉山委員長

基本計画（素案）として岐阜市が作成したものについて、私たちが意見を述べたという段階です。本日、最後の意見を述べる場ということで基本計画（案）が提示され、その後、パブリックコメントが実施され、さらにそれに基づいて、私どもは次のステップに入っていくということになっています。

前回と変わっておりませんが、ご意見はありますでしょうか。（意見なし）

それではこのスケジュールで進めさせていただきます。

では、続いて議題の2に入ります。今回は、岐阜市立新大学の基本計画（案）

について意見を述べていきたいと思います。

資料4にありますように、前回の意見を踏まえてかなり修正をしていただいている。また、資料2に我々の意見に対する対応がまとめられています。事前に資料配布していますのでご覧になっていると思いますが、全体的に、かなりの部分で私どもの意見を入れていただいている。さらに今回、大きな点としては、新大学の候補地として岐阜市香蘭地区という岐阜駅から1キロぐらい、歩いて15分ぐらいでしょうか、そこが候補地として出てきたということで、少し具体像も見えてきたかと思っております。

それではこの辺りについて、事務局から説明をお願いします。

◆岐阜市立新大学基本計画（案）について

（事務局から資料に基づき説明）

○杉山委員長

今、特に変更点を中心にご説明いただきました。このところについて、これからご意見を頂きたいと思います。全部というわけにはいきませんので、順番にまいりたいと思います。

最初のグランドデザインについて、全体としては入口出口も含め、まちづくりや新大学の魅力というところも入れていただいたと思っております。

それでは、最初のグランドデザインのところ、ページで言うと11ページまでについてご意見ありますでしょうか。まちづくりや市の活性化、市の方針と言いますか、政策の中での位置づけなどが明確に述べられたかと思いますが、いかがでしょうか。

それでは、順番に伺いましょうか。名簿に従って、恐縮ですが小野委員から何かありましたら頂きたいと思います。

○小野委員

まず、まちづくりの一環として書かれたことはとても良いことだと思います。前提として、私の役割は、どのような大学を作ったら岐阜市に住んでいる高校生をはじめとした高校生が選ぶ大学になるのかということについて、現場の立場から伝えることだと思っています。この大学にはとても期待していますので、そのうえで気になることだけお話しすると、まちや関係者の方と話をしていると、この新大学について、どちらかというとネガティブなことを仰る方のほうが多いのが現状です。本当に作るのか、どんなものを作るのかと言われる状況がありながら、この大学を作る意味について、市の現状をポジティブに捉えてそれを進めるために作るのか、反対に現状は市にとってピンチなので、これから市をきち

んと進めていくために作るのか、そこがどちらなのか気になります。

結構なお金を使いますので、今の時期に新しい大学を作るということについての私自身の捉え方としては、このままだと岐阜市はなくなってしまうが、それはまずいのでそうならないために、今後の岐阜市を存続させ発展させるためには大学を作っていくということが、この新大学を作る意味かと思っています。

しかし、基本計画（案）を見たとき、現状が非常に良く、今までが順調な中で作るというようなニュアンスが見えると、市民の方から賛同が得られるか疑問です。

今、公立大学が平成初頭から比べるととても増えています。その中であえて大学を作るとすると、やはり作るだけの理由があるのだと、それは、私の認識としては、今こういう対策をしないと本当に岐阜市は埋没してしまう、名古屋へ15分というものは岐阜市にとって必ずしも良い要素ばかりではなく、人が出していくための装置になってしまっているところがある中で、人を引き戻すために新大学を作るということかと考えています。

ですので、書きぶりが何となくポジティブすぎると、パブリックコメントなどを行ったときに、市民の方から賛同が得られるのか疑問です。むしろ、今ここで大学を作らないといけないという、危機感のようなものをもう少し打ち出してよいのではないかということが、基本計画（案）を見たときの印象です。

○杉山委員長

ありがとうございます。その辺りも書かれているとは思いますが、危機感のようなところが少し薄いのではないかというご意見だったかと思います。

全体を伺ってからお話ししたいと思いますので、それでは河野委員お願いします。

○河野委員

全体的に、委員長が仰るように明確になってきたように思います。グランドデザインについて、私に求められているのはおそらくスタートアップやアントレプレナーシップの観点ですので、新しい対象者に対してどのようなアプローチをとっているかという観点でいうと、県内の高校生が学びたい分野が県内にないというアンケート結果があり、県内の大学で比較的定員の充足割合が少ない社会科学系と理工系の分野に絞っているということでしたが、これについて、課題に対して回答がリンクしていないように思うところがあります。

人気がない分野ではないのか、本当にそれが求められているのかが明確に答えられていないところがあるので、もう少しそこを深堀りして、本当に高校生が行きたいということが明確になった方が、自信をもってこの学部だと伝えられ

るのではないかと思います。

○杉山委員長

ありがとうございます。その辺りについて、分野としてニーズがあり県内にないということも書かれているかとは思いますが、書きぶりとして、強調が足らないところがあるかもしれません。

斎尾委員は（オンライン環境の事情で）後でお伺いします。中田委員は本日お休みですので、廣田委員いかがでしょうか。

○廣田委員

グランドデザインを拝見して、まちの中心部に持ってくるということと、共学4年制化することは確定しているということですが、学部について、社会共創学部はどういうことをする学部なのかが、正直なところ少し見えない。理工系という謳い文句があるんですが、それがどこに出てくるのかがちょっと見えてこない気がしています。

そこは人気があるということですが、理工系という部分で何をするのか、それはスタートアップに繋がることなのかがよくわからないところがあります。

○杉山委員長

今、教育研究の内容までお話しいただいたかと思いますが、全体のグランドデザインとしては、まちの中にということである程度評価いただいているということでおろしいでしょうか。

○廣田委員

はい。

○杉山委員長

ありがとうございます。それでは、吉田委員からグランドデザインについてご意見を頂ければと思います。

○吉田委員

市立大学なので、市民にとってそれがどのくらいのメリットになるかが見える形になればよいと思っています。

地域の中小企業がどのような課題を持っているか私が見えていないところもありますので、基本計画の中ではないのかかもしれません、資料等でその辺りをもう少し見せていただけると何かあるかもしれません。特に理工系となると、例

えば工学的なソリューションをもって、具体的な提案を行うこともやっていくかと思うので、どれくらい中小企業との連携があるのか、市民がどうということに困っているのかといったところが気になりました。

○杉山委員長

実際にどんな問題があるかということは最初に少し書かれていますが、市民まで浸透しているかというとなかなか難しいのかもしれません。ゆでガエルという話があるように、次第に今縮小していることについて皆さんどこまでリアル感を持っているかということはあるかと思います。

岐阜市は40万都市ですので、ある程度皆さんに幸せ感がある中で、危機感はまだ薄いがこの後の展望はかなり厳しいという中で今この話が動いているのだろうと思うので、その辺りが伝わりづらいのかもしれません。

大田委員はいかがでしょうか。

○大田委員

冒頭のご意見の中で、岐阜市全体の危機感という話がありましたが、大学から見ると危機感の真っただ中というのが正直なところです。

ただ、大学だけが市全体を変える起爆剤ということではなく、大きなグランドデザインの中で重要なパートとして位置づけられる企画だと理解しています。

特に7ページは、まちの中心部に大学を置くということしかまだ書いておらず、先ほど中小企業の課題をどのようにセッティングしていくかという話がありました。実際にまちづくりの中でどのように連携していくのかといったところは、これから企画部などと重点的に議論していきたいと思っています。

それを見る化することが、おそらく新大学の魅力度にも繋がりますし、先ほどご指摘のあった何を共創するのかとの具体的な例として提示していくのではないかと思います。

○杉山委員長

やはりまちづくりというのが一つのキーワードになってきます。斎尾委員お願いします。

○斎尾委員

まず、「1. 基本計画の位置付け」について、タイトルだけ気になっています。かなりいろいろな資料を足したり、修正いただいたりして、とても分かりやすくなっていました。それと同時にこうした方がよいのではないかという意見ですが、市の構想の中での新大学の位置付けと、この基本計画の位置付けがあるので、

タイトルに少し工夫が必要かと思いました。

7 ページに岐阜市未来のまちづくり構想との関係を入れていただきましたが、岐阜市の教育に関する構想もあると思うので、まちづくりだけではなく、教育や生涯学習などとの関係も入れなくてよいでしょうか。

「2. 新大学のグランドデザイン」も修正ありがとうございました。少しわかりやすくなったように思います。ここでは、都市全体をキャンパスとするというコンセプトが非常に大事だと思うので、一番初めに持ってきてはどうでしょうか。探すと9ページに見つかりますが、少し見つかりにくいように思います。8ページと9ページの順番が逆かもしれません。今後、市民に説明していくと思うので、どれを最初に持ってくるかという順番の工夫があるとよいのではないでしょうか。

また、岐阜県内で私立のコー・イノベーション大学（CoIU）が2026年4月に開学します。世間的に結構有名になっており、非常に魅力的に見えます。それに対してこちらの市立大学の魅力は何だろう、と人は見るので、そこを工夫し、市立大学ならではのできることが強調されるとよいのではないかと思いました。

グランドデザイン以降については、また後で述べさせていただきます。

○杉山委員長

構成の話がありましたが、基本計画がどのようにできていったのかということがイントロとして必要だということで、最初に入っているのだと思います。本来なら理念から入るのでしょうが、市民に説明するときに設置の意義から入りたいというのが市の意向ではないでしょうか。

また、岐阜県にできる新しい大学はマスコミ等に出ている方が中心になっていることで周知が図られており、かなり特殊な大学という位置付けがあるので、そうした意味ではこちらのインパクトが低いということはありますが、少し土俵が違うところがあるかもしれません。

私よりも市から回答いただいた方がよいかもしれません。今のようなご意見がありましたらいかがでしょうか。グランドデザインとしては、市の政策の一環という点や必要性もしっかりと書かれ、誰をターゲットにするかという定義もしっかりと書かれており、かなりできているように思います。魅力という点では、この後の内容とも関係してくるかと思いますが、今のご意見に対して市から何かありますか。

○田中大学改革推進参与

様々なご意見をいただきました。まず、現状に対する認識や表現については、市としても非常に危機的な状況と言いますか、そもそも新大学は、県内の高校生

の 2 割しか県内進学しておらず、岐阜で活躍する人材を育てる必要があるという強い問題意識に端を発していますので、今、ピンチの状況にあるからこそ行うものであるという認識は委員の皆様と同じであると思います。

それがうまく表現できておらず、こうなりたいというところに着目した資料になっているため、ある意味で順風満帆のように見えてしまうところがあると思いますので、現状認識や課題認識と、それに対する解決としてこうしたいという形で、しっかりと伝わるような資料の修正を考えたいと思います。

基本計画の位置付けや資料の構成のわかりやすさについては、再検討いたします。市の構想の中で、全体の構想である岐阜市未来のまちづくり構想を描き、それから経済や中心市街地活性化等の個別政策を書いた箇所において、教育に関する要素などが欠けているというご指摘はその通りかと思います。

例えば、教育委員会の施策との関係では、今後どういった連携をしていくかということがありますし、生涯学習との関係では、新大学でも取り組もうとしているリカレント教育の観点でどう連携していくかというものがありますので、こうしたものをしてしっかりと盛り込んでいく方向で考えたいと思います。

また、ご指摘のとおり、市立大学としての魅力は何かというところも非常に重要なヒントかと思いますので、今すぐにはお答えできませんが、これからしっかりと考えていきたいと思います。

○伊藤女子短期事務局長

廣田委員から、社会共創学部という名称から内容のイメージがなかなかわからないというご意見を頂きました。現在、仮称ですが社会共創学部とデザイン情報科学部という名称を挙げています。この中で、技術者やエンジニアのイメージはデザイン情報科学部にあり、社会共創学部は様々な組織における、あるいは新しい事業を起こすようなリーダーを育てていくというイメージで考えています。

この 2 つの学部を持つことによってどのような人材を育成したいかと言いますと、まさに 12 ページの「人材育成の目標」にありますように、この変化の激しい時代の未来を拓いていく、あるいはいろいろな視点から新たな発想力で課題発見・解決能力を有し地域社会と経済で即戦力となる人を育てたいと考えています。

こうした人材について、それぞれでどのような役割を果たす人を育てていくかというと、社会共創学部では新しい事業を起こす、組織をマネジメントしながら改革していくといった人材の育成を考えています。岐阜地域ですと、例えば中小企業の後継者不足や事業の継承について悩まれているといった現状があるかと思います。こうしたところに入っていって事業承継したり、後継者となったりするなど、経済活性化の観点からも、こうした感覚を持った人の育成が必要とさ

れています。社会共創学部の都市共創コースについては、今は公務員もこれまでと同じように、言われたことを正しく行うだけではなく、新しい発想をしていかないといけませんし、先ほどのご意見にもあったように、岐阜地域における危機感に対して、地域のプロデューサーになれるような人材や、民間と公共の狭間にあるような分野についても、NPO 等で対応できる人材が必要なのではないかといった発想を持っています。

デザイン情報科学部については、実際に新しいものを作るとときに、どのようなクリエイティブな発想を持てるのかというところで、以前、デザインの考え方について、事業を構想するデザインもあれば、何かを伝えるための一般的なデザインもあるという話がありましたが、ここでは何かを伝えることや、住みやすい暮らしを作っていくようなデザインとして、建築や見えるものについてデザイン化していく力を育てること、エンジニアを育成することを考えています。

また現在、情報というものは非常に多分野にまたがっており、社会で必須のソフト基盤のようなものだと考えています。こうした分野において情報技術を使える人材を育てていき、先ほどの改革できるリーダーという人材と一緒に社会を変えていくデータ分析やデザインができる、そのような組み合わせの人材を、この 2 つの学部で文理融合しながら育てていくことが岐阜市あるいは岐阜県において必要ではないかと考えています。これが教育の全体的な考え方です。

○杉山委員長

ありがとうございます。教育の内容まで踏み込んだかと思いますが、地域で今どのような人が求められているか、あるいは将来求められるのかを考えたときに、今までの理系文系といった分類ではもう無理で、多面的、多様な考え方が必要であったり、いろいろなスキルを持っている人が必要だったりということで、こうしたもののが出てきているのではないかと思います。そのため、グランドデザインの中に文理融合などをしっかり読み込みながら、また、情報というのが大きなキーワードだと思いますので、こうしたものが入っているのだと思います。

公立大学ということを考えると、当然、地域のリーダーや起爆剤となる人材、あるいは地域活性化という視点になるため、このようになると私は理解しています。

今の回答についていかがでしょうか。全体のグランドデザインについて、このようなところはやはり必要かと思いますが、よろしいですか。（異議なし）

それでは、構成など資料を一部修正することですので、そのようにお願いしたいと思います。

続きまして教育の内容についてです。先ほど少し議論になりましたが、最初にしっかりとどのような人材を育てるのかということを決めてから、今は仮称では

ありますが各学部の特徴を述べていただいている。

これについてご意見を頂きたいと思います。最初に、小野委員いかがですか。

○小野委員

以前に比べると、本当に丁寧に分かりやすく作っていただいたと思います。ゼロから1を作っていくことが大変な作業であることは十分認識していますので、事務局におかれでは本当にお疲れさまでした。

先ほどお話ししましたが、私の役割として高校生が何を求めているのか、どういう大学を作るのがよいのかということで述べますと、私は、高校生は大人が思っている以上に良いものを見極める目を持っていると思っています。

典型的な例が秋田県の国際教養大学です。今から20年くらい前にできた公立大学ですが、秋田県にこの大学ができた当時、私の教え子がそこへ行きたいと言っていました。まだ本当に始まってすぐの頃ですので、正直なところ、コンセプトは良いが学生が集まるのだろうかと思いながら、しかし生徒が希望しているので送り出しました。

結果、今どうなっているかというと、本当に良い学生が集まっています。私の認識では、東海圏や関西、関東から半分以上行っているのではないかと思います。名古屋大学レベルを含め、かなり優秀な子どもたちが行っています。

ですから、何が大事かというと、コンセプトをきちんとすることが大事だと思っています。その意味では、まだこれから練っていく案の段階ですので、ぜひコンセプトを明確に作っていただきたいと思います。社会や地域のニーズ、時代の流れを読み、高校生の声も聴きながら、高校生の声をお伝えすることについてはいくらでも協力させていただきますので、丁寧に作っていただきたいと思います。

高校生が見る視点と、大学の先生方が見る視点は違います。大学の先生がいらっしゃる中で恐縮ですが、大学の先生の視点は私どもから見るとピントが外れており、高校生はそんなふうに考えないということも結構あります。できれば、アンケートを行うときなどに相談していただければ、良い大学を作るためには協力を惜しみませんので、ぜひそのあたりをお願いしたいと思います。

もう一点、岐阜短の方がいらっしゃる中で言いづらいことなのですが、できるだけ岐阜短との繋がりを切っていただきたいと思っています。職員もいる中で難しいかもしれません、今岐阜短にいる先生で何ができるかという考え方でいくと、コンセプトが明確にならない気がします。何が必要かという観点から、岐阜短の先生も新大学でやられるなら一から勉強しなおくらいのつもりでやっていかないと、ぼやっとした大学になってしまいます。高校生が一番嫌うのはその「ぼやっと」ですので、そこが怖いと思っています。

後は、PBLについて書かれていますが、高校の探求の授業は5年前、10年前とは全く違っています。高校の教員も真面目に勉強しながらやっていますので、言い方は悪いのですが、大学に行ってからレベルが下がったと言う子もいるくらいです。生半可なことをやっていると本物ではなくなってしまうので、研究の内容や何をするかについてはとことん詰めてやっていただきたいと思います。

先ほど説明のあったように四半期に1回くらいとなると、私が危惧するのは、今の岐女短の先生が中心になってやっていくとなると、岐女短（ダッシュ）ができてしまうのではないかということです。一から国際教養大学を作ったときのように、そういう大学を作るのだと、岐女短の先生も今を捨ててもう一回新しいものを作るのであるのだという気持ちでやっていただきたいと思います。極端なことを言えば、自分は無理だと思えば辞めても構わないと思います。志ある先生が残るというくらいのイメージで作っていかないと大学は成功しませんし、反対にそれをやれば成功すると思うので、今はまだぼやっとしたコンセプトだけですが、これを詰める段階においては、そこを本気で取り組んでいただきたいと切に願います。

○杉山委員長

ありがとうございます。大学に対するご意見については耳の痛いところがありますけれども、秋田の国際教養大学は確かに素晴らしい大学だと認識しています。優秀な学生が入学していると聞いていますが、地域活性化にどれだけ寄与しているかはなかなか難しいところです。また、会津大学にも情報系の学部ができましたが、学生が集まった後に地域にどう繋がったかが難しいところです。

今回、地域の活性化をどうするのかというテーマの中でできていますので、それに対して批判的な観点が必要かと思っています。今後 PBL は大きな柱として考えなければなりませんし、大学もいろいろと動いている状況があり、様々な改革が進んでいるところですが、アピール不足のところもあるかと思います。

それでは続いて、河野委員いかがですか。

○河野委員

小野委員も仰ったように、だいぶ分かりやすくなってきたと思います。前回の意見にあったキャリアデザインセンターや、スタートアップの教育についての意見もきちんと入れていただいています。

ネガティブな意味ではなく、とてもチャレンジングなことをやられているように思います。産学官連携が企業でいうと開発部、キャリアデザインセンターが人事部という感じでいくと、確かに産学官を繋げるという意味では同じだとは思うのですが、文化や環境が違う人たちが一緒にいるとどうなるのだ

ろうと思うところがあります。単に一緒のところにいるだけでは良いものはできませんし、ただ単にその場にいるだけということになってしまうので、人材というリソースと研究やノウハウなどをうまく融合させた形でどのように持っていくかを考えいくと、何か良いものができるのではないかでしょうか。今までこうしたことにはばらばらでやっており、大学あまりやっていない取組だと思うので、良いものを作るために、先ほどのグランドデザインを真剣にというご意見に繋がると思いますが、そこを実施いただけすると嬉しいです。

また、研究や学部の内容については、立地とリンクさせて考えてきたことがありますので、また立地のところでお話しできればと思います。

○杉山委員長

ありがとうございます。続いて、斎尾委員いかがですか。

○斎尾委員

教育の内容について、前回申し上げたことと同じ意見ですが、デザインという言葉について、見た目や、機能とリンクしないスタイリングの部分だけを指しているのならばよいですが、プロジェクトを進めること自体や仕組み全体も指しているのであれば、何となくしっくりこないところがあり、ずっと引っ掛かりを感じています。学部名称を考えるときに、もちろんこれまでの学部の中身や蓄積が大事だとは思いますが、引っ掛かり続けているところです。

後は、先ほど申し上げましたが、やはり市立であるということをどんどん押し出していくべきだと思うので、市が素晴らしい教育方針を持っていて、それを表現する大学を作るということがわかるような、それがにじみ出てくるものになるとよいと思います。具体的に何を書くとよいという提案がなくて申し訳ありませんが、以上です。

○杉山委員長

日本人の中でデザインというと、おそらく服飾デザインなどの見た目の話だったのだろうと思います。それが、新しい概念としてデザイン思考というものが生まれてきている中で、混同が生じている部分があるかと思います。資料を見ると、ここにあるデザイン分野というのが元々日本人が思っていた概念で、デザイン思考というと組み立てや課題解決なども含まれると思うところ、デザインの専門課程といった書き方がされている箇所などは混同の元かもしれない、見た目のデザインとデザイン思考の区別がわかりやすくなるよう、意識して書き直す必要が少しあるかと思います。だいぶ意識はしていただいていますが、この二つの言葉は大きく概念が異なっていますので、斎尾委員の仰るように

少し修正が必要かと思います。

それでは廣田委員お願いします。

○廣田委員

事務局の皆様で頑張っていただいて、内容が非常に具体的になってきたと思っています。企業の立場から申し上げると、今とにかく人手不足ということがあります。また、我々としてはスタートアップに参画したいと思っています。新しい事業を見つけ出すことは企業にとっても必要ですし、岐阜市の活性化にも繋がるのではないかと思います。それに関連してAIやITについては、これを加味していくか生き残っていくかを考えています。

先ほど言わされたコンセプトという点では、例えば宮田（裕章）さんがやられようとしている大学（CoIU）は、宮田さんがやっているのでちょっと目立っているということもあるかもしれません、ある意味で一つの戦法だと思います。こういう方を持ってきて、その方にこういう大学だと謳っていただいたら、本当に良いものが出てくる気がしますし、戦略として必要なのではないかと思います。

内部でただ話しているだけでなく、それをどうアピールしていくか、どう全国に謳うかが大切です。先ほどの秋田県の大学もそうですが、全国から学生が来る形にしたいですから、そのためにはそうした戦略やコンセプトをしっかりと確立して、訴えていくことが必要ではないかと思います。

そこが岐阜の一番苦手なところで、良いところはあるのになかなかアピールできないということが一番の弱点ですから、考えていく必要があります。我々が何か考えてあれがいいこれがいいと言うだけではなく、それをしっかりと謳っていくことも考えていただきたいです。

○杉山委員長

岐阜において非常に耳の痛いところです。アピールの仕方が弱いのは確かかもしれません。どうアピールするかは難しいですが、市民というところが大きくありますので、そこにいろいろな方がいらっしゃる中で、どう合意していくかということもあり、慎重に進めておられる部分もあるかと思います。また、CoIUは私立大学ですので、やはりその違いはどうしても出てきてしまうかと思います。

先ほど、小野委員から岐女短に対して非常に厳しい意見を頂きました。20ページにその辺りについて書かれており、今後の構想として、かなり岐女短の流れとも違う流れを作っていますし、伝統は伝統としてということで作っているとは思うのですが、断ち切るべきというところまで仰っているので、少しその辺りを含めて検討いただきたいと思います。

大田委員お願いします。

○大田委員

重要なご指摘かと思います。私どもも、岐女短の延長に新大学があるとは全然思っておりません。ただ、人を見ながら大学運営をしていますので、先生方にも、新大学においてできることや、新大学に持ち込みたいことをレポートしていたいたりしますし、今、外部の機関と連携して、4年制の教員資格があるか予備的に審査しています。

ただ、やはり重要なのは、皆様からご指摘があるようにコンセプトをしっかりと早めに立てて、新しい大学の価値提供ストーリーと言いますか、いわゆるバリュープロポジションを明確にして、そこからバックキャストでどういう先生方がよいかという議論が多分正しいやり方だと思います。

走りながら考えていいかないと伺いましたので、その辺りは難しいところですが、まだ設立まで少し時間がありますので、先生方には足りないところを提示しながら、できれば頑張れる方にはぜひ続けてやっていただきたいと考えております。

もう一点だけ、杉山委員長が仰ったように全学共通のいわゆる教養部門の見直しが進んでいます。AI は問題を解きますが問題を作ることができないということや、AI がやったものが本当に意味のあるものかを判断する地頭のようなところで、今回、リベラルアーツなどの部分を強調していますので、15 ページの全学教育にも明確に書いていますが、個人的にはここも新大学のコンセプトと言いますか、特徴にしていきたいと思っています。

○杉山委員長

ありがとうございます。この内容からすると岐女短が行ってきたものをだいぶ変えたことは事実だと思います。今あるものをどうするかということには非常に難しい面もあると思いますが、これも極力しっかりとやらなければならぬと思ってています。

吉田委員、教育内容についていかがでしょうか。

○吉田委員

資料について、しっかりとまとめてきていただいていると思っています。先ほどご指摘があったように、デザインにはどちらも含まれるという意見が前回も出ていたと思いますので、デザインとはこういうものだということがしっかりとわかるとよいということが一つです。

また、今 13 ページを見ていますが、誰をターゲットに訴求するのかが気になりました。中小企業などに向けて説明するときは分かりやすいかと思いますが、

市民にとってこの説明や用語でわかるのかということや、高校生に選んでほしいという話もあったかと思いますが、高校生から見たときにこれがどう見えるかという視点がもう少し必要かと思いました。

先ほど、あまりふわっとしているとわかりにくいという意見もありましたが、「こういう人材になれる」ということや、地元志向が強いのであれば「地元の就職先でこういうことが求められているので、このような人材を輩出する」といったことを、ターゲットをどこに絞るのかを含めて、もう少しシャープにするとよいかと思いました。

○杉山委員長

先ほどからの意見にもありますが、高校生の視点が少し足りないのではないかというところがあるかと思いますので、内容を見ながら、高校生や保護者が見たとき、市民が見たときにどうかという視点で確認する必要があるかと思います。少しブラッシュアップを行っていきたいと思います。

全体としてはいかがでしょうか。よろしいですか。

○小野委員

内容をもう少しシャープにしなければならないと思います。私のイメージは岐阜大学にあるOKB SCLAMB（スクラム）で、あれは本当にすごい施設で、すごいことをやっていると思います。あれを教育課程としてやることができれば、まさにアントレをやれるのではないかでしょうか。今はサブ的に大学の中でやっていますが、あれをメインにするような大学は、子どもたちにとっても魅力的ですし、これから社会にも求められ、市民にも大学の意味があると思ってもらうことができ、他所からも人が来るのではないかと個人的には思います。

今的基本計画ですと、社会共創や、デザイン、情報という手垢にまみれた子どもたちが選ばない単語をあえて選んでいるように思います。文科省が言葉を選ばせてくれないこともありますが、彼らもわかっていないので、そこは岐阜市がこうしたいということをきちんと示していく、尖ったものを見せていかないといけません。何かぼやっとしており、子どもたちが選ばないワードでまとめたよう見えてしまうので、ぜひそこをよろしくお願いしたいと思います。

○杉山委員長

難しいところで、尖った名前を付けると今度は遊びがなくなってしまい、その後で流行が外れたときにどうなるかという問題もあってぼやくなってしまうところもあります。我々もよくすぐ共創という言葉を使ってしまうので、痛烈な批判を頂いたというところですが、その辺りはもう少し考える必要があるかと

思っています。

今、スタートアップの話が出ましたが、今まで労働者を育ててきたところから、自分で何かを作ったり、積み上げていったりするような人を地域でどうやって育てるかということや、働くにしても自分で考える力が必要だということで、スタートアップやアントレプレナーシップが求められているのだと思います。

河野先生、ご専門かと思いますがその辺りについていかがでしょうか。OKB スクラムというのも例としてはあるのですが。

○河野委員

少し香蘭地区の話も出てきますので先走ってしまい申し訳ありませんが、今回、新しいところにキャンパスができることがほぼ確定しており、今入っている商業施設が出ていく中で、既存施設の機能の一部活用も検討すると岐阜市からの説明で伺いました。その際、せっかくなので、学生が考えたものをそこで販売したら面白いのではないかとお話ししました。

そこから少し考えてきたことで、これは一つの案なのでこうしなければならないわけではありませんが、ベンチャーやスタートアップのような大きい形ではなく、新事業を作るということを一つのコンセプトにしても面白いのではないかと思いました。岐阜大学や名古屋大学で大学発ベンチャーということをよく言っているんですが、大学発のディープテックと言われているものではなく、ニーズドリブンで走っていく、社会や地域の課題、商業施設や、岐阜であれば農業など、様々なフィールドで行うものです。都市をキャンパスにしようというところで、キャンパスだけでなくフィールドにしたらとても面白いことができるのではないかと思います。

東海地方や全国には、様々な課題を抱えていたり、こういう新商品を作りたいと考えたりしている企業は山のようにあると思うので、それをこの大学に持ち込んでもらい、二つの学部を文理融合してコンサルします、できたものを試験的にこのフィールドで試すことをやりませんか、というイメージです。岐阜市が、市民や企業などいろいろなところにフィールドを貸してもらい、企業にただ任せのではなく、学生も一緒に入って開発していく。それができるものもできないものもあるとは思いますが、できるだけ学生に入ってもらうと、座学だけではなく実地訓練にもなり、リーダーシップも育成でき、データ分析も使えるのではないかと思います。

そうしていくと、結果的に岐阜市内への就職につながるような流れがてきて、先ほど申し上げた、キャリアデザインセンターと産学官連携が同じところにいる意味もできるのではないかと考えました。

これがよいかどうかは別として、スタートアップやアントレプレナーシップ

などを学ぶにあたり、座学や PBL だけではなく、本物の実地ができるといったことを謳うとすごく面白いのではないかと思った次第です。

○杉山委員長

実践の場をしっかりと作るということは重要なと思います。一方で、実践の場でただ単に門前の小僧ではいけないわけで、論理的なしっかりした基盤がないといけません。それは仰るところの座学だと思いますが、そこをどうきちんと修めたうえで、批判的な目を持ちながら実践ができるかという画が必要になってくるかもしれません。ただ、今まで大学には実践が欠けていたところがあるかと思うので、そこを強化するというのは大事な視点かと思います。

それではキャンパスと立地の話が出てまいりましたので、斎尾委員いかがでしょうか。キャンパスと立地について、都市全体をキャンパスとするというコンセプトの中で動き始めようとしている中で、実際の候補地が、駅からすぐ近くの商業施設の跡というところまで決まってきたところですが。

○斎尾委員

香蘭地区で展開することが現実味を帯びてきたとお聞きしました。都市全体をキャンパスとするというコンセプトなので、さらに市立大学であることのメリットを生かすために、例えばメインキャンパスに今いろいろな商業施設があるので、そことどう関わりを持ち続けるかということも、都市全体をキャンパスとする市立大学のメリットに繋がるかと思っています。

また、(地図上の) 柳ヶ瀬エリア、駅前エリアというところに○がついています。おそらく空き家や空き店舗があるかと思いますので、それらを活用したサテライト教室があつても良いのではないでしょうか。そして、メインキャンパスから柳ヶ瀬、駅前、市役所などを結ぶ自転車移動があつてもよいですし、空き家・空き店舗を活用したプロジェクトはまさに市が推進する都市再生ともリンクするので、市立というメリットを生かした都市全体をキャンパスにというアピールに使えると思います。

一方で、メインキャンパス整備と同時に現在の岐女短のキャンパスをどう利活用するかも問題になってくるかと思います。同時並行的に活用の仕方の検討を進めることで、市民に対し、市全体の都市再生をきちんと進めており、そこに新大学を作ることを位置付けていることと、市全体のまちづくりを考えているということをアピールできる一つの材料になると思います。現在のキャンパスの利活用をどうするかを同時並行的に進めつつ、整備予算にもその部分をきちんと入れておくと、とても誠実感が伝わると思いました。

また、学生の住居について、前回、民間アパートを活用するなどということを

伺ったように思いますが、市営住宅で余っているところを使うことも考えられます。市営住宅の活用というのはまさに市立のメリットだと思います。

都市全体をキャンパスにするということと、市立のメリットをうまく組み合わせたコンセプト強化がよいのではないかと考えます。

○杉山委員長

ありがとうございます。まだ候補地が決まった段階ですので、なかなか答えにくいところもあるかもしれません、現在の岐女短のキャンパスをどうするかということや、現存の施設はどう展開するのか、まちとどのように繋がっていくのかという質問について、これから検討だとは思いますが可能な範囲で市から回答いただけますでしょうか。

○田中企画部大学改革推進参与

今の段階でお答えできることは限られるかと思いますが、まず、香蘭で今の施設を改修して新大学を整備していくという方向性を打ち出したところで、これを具体化していくときには、例えば今の床面積のうちどれくらいが必要か、仮に全部が必要でなければ、今の機能を一部残したままにできるかといった検討をしていくことになると思います。もちろん新大学のメインキャンパスは市民に開かれたものにしたいと思っていますし、新大学以外が入居するようなスペースが作れるかどうかや、あらゆることをこれからテーブルの上にのせて議論していきたいと考えています。

まず初めに、新大学のメインキャンパスの近隣の事業者や、ご指摘にもあったような柳ヶ瀬や駅前の事業者の方々と、教育研究上や課外活動でどのような協力ができるかということを具体的に相談していくことから始めることになるかと思います。

また、斎尾委員からご指摘があった空き家・空き店舗の活用について、拠点化して使うこともあり得るかと思いますし、学生の居住やまちなかへの誘導に使える可能性もあるかと思いますので、まさにご指摘のとおり市の政策的な誘導や仕掛けとどのように組み合わせていけるかについて、場所を打ち出したことで議論もしやすくなりますので、これからより具体的な議論をしていきたいと考えているところです。

○杉山委員長

27 ページに空き店舗や賃貸住宅を学生寮にという話がありますので、政策の中でこうしたものをどうするか、しっかり学生に住んでもらうということが重要かと思います。

また、この場所はまちの真ん中からは外れてはいるので、動線や、サテライトのようなもので学生を中に入れ込んでいくことは大事な点ですので、今後の課題として検討する必要があるかと思っています。

それでは、立地に係る構想について一人ずつお伺いしましょうか。小野委員いかがでしょうか。

○小野委員

最初にお聞きしたとき、正直なところ、岐阜市民からすると本当にぎりぎりの場所だと思いました。個人的には駅から北側の左側を何とかしないといけないと思いますし、柳ヶ瀬と繋げないといけないと思います。

先日、高松市へ行ったのですが、そのときに岐阜市と比較して見てしました。高松市は、高松駅から繁華街が30分以上続いている、柳ヶ瀬くらいの場所までずっと繁華街が続いているんです。しかし岐阜駅の前は、ここに岐阜にお住まいの方もいらっしゃるのでお話しすると、飲み屋街はあるものの、という感じです。最初に申し上げたのはそこで、よい大学を作つてほしいのであえて申し上げますが、やはり今うまくいっていないという前提から入らないと市民は納得しませんし、なぜここに何億も使わなければならぬのかということになります。

香蘭であればぎりぎり歩いていけるし、そこまでの距離をモデル的に活性化すれば、それをモデルとして柳ヶ瀬の方まで元気になっていくかもしれませんので、その意味で言うとぎりぎりかと思います。しかしやはり駅前の北側は難しいのですよね。

○廣田委員

そこにできれば一番良いのですが、地権者が多すぎますよね。

○小野委員

重すぎるのですよね。そこに作ることができれば最高だと思いつつ、難しいこともわかりますので、そういう意味では今ある中でのベターな選択ではないでしょうか。ちょっと遠いが頑張れば行けるという、本当にぎりぎりのところだと思います。

また、今のオーキッドパーク的な色を残さないことも大事かと思います。使い古しとなると、学生は「お古を使うのか」と絶対に思うので、いかにお金をかけずにきちんと大学らしくするかということも成功の鍵かと思います。

○杉山委員長

おそらく、お金をかけずに良くするということは一番難しいことかと思います。場所も、やはり柳ヶ瀬や駅前くらいが一番良いのでしょうけれど、地権が非常に複雑ですので、なかなかこれも難しいのだろうと思います。そうした中では、先ほど斎尾委員が仰ったような、サテライト的なものをどう作っていくかということが成功の秘訣かと思います。

それでは、河野委員お願いします。

○河野委員

サテライトやアネックスなど、いろいろな形で柳ヶ瀬など様々なところに作るということもぜひやってほしいと思います。一方で、先ほど岐阜大学で大垣共立銀行がやられているOKB スクラムの話がありましたが、メインキャンパスにも企業のブースがあるとよいと思います。

参考になるのが、近畿大学が数年前から行っている取組で、図書館の中に地域の中小企業や大企業が入ってブースを作り、そこにファシリテーターがいて、課外という形になりますが、学生が一緒にプロジェクトを作るということをやっています。先ほどの話に繋がるのですが、企業が持っている課題や考えている新商品などについて、企業がお金を出してブースを借りて、学生が半年間一緒になって新商品を考えるというようなプログラムを走らせています。

近畿大学自体がベンチャーの方に走っていっているので、ちょっと今それがシュリンクしており、地域の産学連携が少し手薄になっているところがあるのですが、岐阜市内だったら何かできるのではないかと思いますし、そういう呼び込みという意味でも、メインキャンパスに人が集まるような仕掛けができると面白いのではないでしょうか。OKB スクラムのように一社だけではなく、いろいろな企業に入ってくれる仕掛けを作つておくことは大事なのではないかと思いました。

○杉山委員長

ありがとうございます。おらが町の大学のような雰囲気がでて、いろいろな人が活発に活動する中に学生も入る形が生まれればよいと思います。一方で、セキュリティの問題もあり、なかなか両立は難しいのだろうとは思いますが、最終的にはどれだけ市民も一緒になって活動でき、学生や若者を社会の中で育てることができるかということかと思います。

それでは、廣田委員お願いします。

○廣田委員

立地について、これは事務局にもお話をしたことですが、振り返れば20年くら

い前に香蘭地区に岐女短のキャンパスを作ろうという話が確かあったかと思います。それが今の場所に作ることになったと聞いており、本来ならそのときにそこに作っておけばよかったと思うのですが、小野委員の仰るとおり、香蘭は本当にぎりぎりの場所だと思います。

今、商工会議所もまちづくりに力を入れており、とにかく活性化していこうと言つてやっていますが、香蘭は本当にぎりぎりのところです。できれば駅の北側、特に明徳小学校の跡地などに学生が通学すれば、間に柳ヶ瀬などがあって、お金をいろいろなところに落としていくことになり、それが活性化に繋がるのだと思います。香蘭地区はマンションがたくさんできてしまっていて、住まいはたくさんあるのですが、ちょっと違うところです。もちろん大学ができればいろいろなお店ができるくるかもしれません、現時点ではまだ考えられないところです。

もう一つ、まちづくり全体の構想から申し上げると、例えば十六銀行があえて市役所跡地に本店を作るのはなぜかということです。あれはあえてあの場所にしたのは、あそこに通勤することで駅からの人の流れができるからです。そういうことでまちが活性化する、だからそこに持っていくのだと、そういう理念をもって十六銀行が移られるんです。本当なら駅前に建て替えて作ればよいのですが、それをあえて市役所跡地を使うという決断をされた理由はそこにあるんです。ですので、全体からすると、本当は大学もそれに沿ったところにしていたいと私は思つており、現場の皆様にもそういう話をずっとしていました。

香蘭地区というのは非常に難しいと思うんです。ご説明のように建物をそのまま使うとすると、確かに節約にはなりますが、定期借地権ですので、はつきり申し上げるといつでも壊して更地にできるような建物になっていますから、それを使っていくのはなかなか難しいことだと思っています。できれば、まちなかに持ってきていただきたい。そうすることで企業との繋がりもできるのではないか、まち全体の活性化にも繋がっていくのではないかと思います。

また、内容的なことでは、岐阜大学はスタートアップやベンチャーにもとても力を入れておられて、私も岐阜みらいポータル協会に携わっていますが、その中で連携して、もちろん市も関係していますが、新しいものを生み出そうとされています。やることがバッティングしてしまうかもしれない難しいのかもしれません、そうした岐阜大学がやっているようなことが新大学にも必要だと思います。それがもっと駅に近いところで具現化でき、さらに岐阜大学との連携も含めて作り出していただければ、一番良いのではないかと思います。

○杉山委員長

ありがとうございます。期待の裏返しということで、かなり力を込めてご提案

いただきました。立地についてはなかなか難しかったのだろうと思います。ただ、同じような感想をおそらく皆さんお持ちだと思うので、今どうとはなかなか言えないと思いますが、それをカバーするような構想を作っていくことが必要かと思います。

吉田委員いかがでしょうか。岐阜の中の立地の話になりますので、一般論でも結構です。

○吉田委員

ちょっと土地勘がないものですから、場所についてはあまりわかっておりませんけれども、駅から歩いて数分の場所ということですので、そんなに悪くない場所なのだろうと想像しています。

ただ、一番の繁華街とはちょっと距離があるということで、自転車で移動するという話もありましたが、最近はこうした移動手段をどうするかということが、私のいる京都などでもとても問題になっています。こうしたものはどこにでもある課題ですし、例えば自転車が走りやすくなるようなまちをここでもう一度デザインしてみると、他にも展開できることもあるかもしれません。モビリティに関する課題というものが最近どこでもよく言われていますので、そういう部分も含めてこの大学で検討いただけるような形になると面白いのではないかと思います。

候補地の場所を見ると隣が公園になっているのですよね。例えば、最近作られた立命館大学の茨木キャンパスが、地域の方がよく使っている公園のすぐ隣に大学を持ってくるというプランにして、市民の方も一緒にその場所を使いつつ、大学としても発展し、市民と一緒にまちを作っていくというキャンパスとして作られています。あちらは私立大学ですが、今回は市立大学ということですので、せっかくなのでその辺りもう少し打ち出していって、良い公園を作りつつ、それに付随する設備として大学を作っていくというようなものが出てくるとよいのではないかと思います。

茨木キャンパスの場合だと、そこに商工会議所なども入れているようで、やはり大学と市民とが密接に連携しながらまちを盛り上げていくような機運ができているかと思いますので、岐阜市が作る大学ということで何かそうしたことができると面白いのではないかと思います。

○杉山委員長

貴重なご意見ありがとうございます。キャンパスだけで止まってはいけないというご意見かと思います。市民や社会がどう使っていくかということや、モビリティということですと岐阜市も自動運転なども始めておられるので、こうし

たものをうまく機能させるのも一つの手かと思います。

○事務局（小川総合政策課大学改革推進室主幹）

すみません、斎尾委員がご退出の時間です。

○斎尾委員

今、チャットに本日発言したことを大体上げさせていただいたので、よろしくお願いします。まだ発言していないことも二つほど書きましたが、内容は、19ページの3つのセンター設立について、一つ目と三つめの機能が重複しているかということと、25ページの法人化に係る現在の図に、岐女短の位置を入れた方がよいかどうかということです。

○杉山委員長

ありがとうございます。参考にさせていただきます。

(斎尾委員退席)

○杉山委員長

それでは大田委員お願いします。

○大田委員

立地については微妙だというご意見も多かったのですが、現在の場所は勉強に集中するには本当に良いところなのですが、卒業生のアンケートを取ってみると、かなり通学がしんどかったという意見が多くあります。岐阜駅まで来て、その後 20 分バスに乗るとなると、やはり距離感が厳しいのかと思います。次の大学のコンセプトが、まちなかで都市全体をキャンパスにしてということで、駅から歩いて通える距離にあるというのは非常に良いポジションかと思います。

また、学業とは関係ないのですが、学生は大体アルバイトをしますので、おそらくこの辺りで学生が散らばって回遊しているという状況ができ、一部活性化に繋がるのではないかと思っています。この香蘭地区を例えればアカデミアやアントレプレナーの拠点にするなど、市としてどのようにデザインしていくかということで、有機的に柳ヶ瀬と繋いでくやり方などがあるかと思います。

○杉山委員長

岐阜大学もバスで 30~40 分かかり、岐阜と名古屋は近いが大学と駅が遠くて

騙されたとよく言われますので、岐女短も同じような状況にある中で、ちょっと消極的ではありますが、歩いて行けるというだけで魅力的だと思います。

そうはいっても、まちの動線から外れるというところがありますので、なかなか難しいとは思いますが、今のご意見に対して市からいかがでしょうか。

○田中企画部大学改革推進参与

立地についてはいろいろとご意見があるかと思います。

今のご議論について、駅の西側としたのは、既存施設の改修で費用が抑えられるというような制約の面もありますが、市としてはまちづくりとして自信をもって決めた部分もあります。今までほどちらかというと駅の北側に市街地が形成されており、西側には朝日大学の施設があるなど少し文教的なエリアということで、新しいまちづくりを進めていくきっかけにもできるということで選んだところもあります。

そこと中心市街地との関係では、先ほどご意見があったような柳ヶ瀬方面に学生が出ていくための仕掛けを考え、ソフト的な連携や、作れるかはまだわかりませんがサテライトや学生が滞在できる居場所づくりなど、様々な面でしっかりと柳ヶ瀬方面や駅北側方面との繋がりを作っていくたいと思っています。

そのときのヒントになると思いましたのは、吉田委員が仰った公園などの周囲も含めたエリアで考えるということです。ちょうど良い形で隣に公園が設置されていますし、朝日大学や他の機関、地域の商業などとどのような連携を図れるかということを含めて、エリア全体をどうしていくかという議論をこれからしっかりとできればよいのではないかと現時点では考えています。

○杉山委員長

場所についてはなかなか意見を差し挟めないところもあるかと思いますが、こうした観点があるということを、次の構想のときにぜひ生かしていただければと思います。

それでは、これで一通り見ていただきましたが、この基本計画（案）をこの後パブリックコメントを持っていくにあたって、ここはもう少し考えた方がよいというところがあれば、少し時間がありますので伺います。全体を通して、いかがでしょうか。

○小野委員

前回、私がなぜ「学生」なのかと意見を述べたところに「生徒」と入れていただけたことはありがたいと思っています。ただ、本当はここは「高校生」なのでよね。生徒は自分たちのことを生徒とは言わないので、本当は「高校生」が選

ぶ大学なのではないかと本音では思います。

もう一つ、明日辺りには香蘭のことも外に出るかと思いますが、やはり市民を味方にしないといけないと思います。そのためには、読んでいてわくわくするような、良い大学ができると思ってもらえるようなものが必要かと思います。先ほど河野委員の話を伺って、企業のブースが入るなどOKBスクラムの拡大版のようなものができれば、本当に面白い大学になり、企業にとっても魅力的だと思いました。岐阜市も財政的にはそれほど豊かではないので、市民がこれだったら税金を使ってよいと思うような、私も市民で納税者ですけれども、打ち出し方としてそこが本当に必要だと思います。

私が聞いている話では、歩留まりがどれくらいかはわかりませんが、国際教養大学ができたことによって秋田の町おこしに残っているような子たちが一定割合いるそうです。先行投資といいますか、そのような発想で作ってほしいという思いですので、パブリックコメントにあたっては、岐阜市はこうしていくという未来志向の書き方をしてくださるとありがたいと思います。

今の案を見ると、これまで正しいことをやってきて成功してきたという感じがてしまいます。おそらく市の職員としては、それなりの矜持をもってやってきたのでそう書きたいという気持ちはわかるのですが、市民からすると必ずしも順調ではなく、高島屋もなくなってしまったではないかというところが市民の感覚なので、市職員と市民の感覚が若干ずれているように思います。やはり市民から見てどう見えるかというところを大事にしてパブコメをしていただければ、それならやろうというポジティブな感じになるのではないかと思います。

こどもファーストを一貫して掲げると言ったとき、市民はそうした意識があるのか少し疑問です。正直なところ、私は疑問に思います。以前もお話ししましたが、岐阜市として市岐商を大事にされることはわかりますが、あまねく高校生に選んでもらうことを考えるならば、あえて書かないということも大事ではないかと思います。そう申し上げても書かれているので、岐阜市は自分たちが正しいことをやっており、市民はそれについてこいという発想のように見えてしましますので、むしろ視点を逆にした方が、市民からはポジティブな声が出てくるのではないかというのが私の思いです。

○杉山委員長

この後パブコメですので、市民からどのような反応があるかが非常に重要なポイントだと思います。様々なご意見の方がいますので、それをどう取り入れていくかになるかと思いますが、そのときに間違った情報を与えてはいけませんので、正確性を見ながら、また夢というものは重要なので、将来ここは発展していくということをしっかりと伝えていくことが必要だと思います。

そうしたアピールという点では少し足らないところがあるかもしれません。先ほど出たような市民に開かれた大学といったところはあまり書かれていないように思いますので、少しここは強調して、河野委員が先ほど仰ったようなことなどを具体的に書くとよいのではないかと思います。国際的なところでフィレンツェなども入れていただきましたが、市民という視点がさらにもう少し必要なかもしれません。

時間がだいぶ押してきましたが、言い足りないことなどがあればお願いしたいと思います。いろいろなご意見もありましたが、基本的にはこの基本計画(案)が大きなところではかなりブラッシュアップされてよくなつた、というのが委員の皆さんからのご意見でしたので、今日の意見を少し入れていただきながら、もう少し変えるところは変えるということでお任せしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○田中企画部大学改革推進参与

中田委員は本日ご欠席ですが、事務局で意見を預かっていますので紹介します。

○事務局（小川総合政策課大学改革推進室主幹）

中田委員の意見を紹介します。

まず施設整備に関して、香蘭地区には7街区、10街区、14街区があり、そのうち10街区と14街区を使って整備することについて、契約期間の満了があれば、例えば7街区の活用は考えられないかとのご意見があり、国に大学・高専機能強化支援事業がありますので、こうしたものを作り、うまく活用して、例えば先に岐女短の学部を改組し、理系学部を先に作って補助金を活用しながら7街区を整備する方法もあるのではないかとのことでした。

それから、今回どこの土地かをはっきり発表できる状況になり、委員の皆様に思いが伝わる要素になるかと思うので、ぜひいろいろな意見を伺って検討いただきたいということでした。

また、社会貢献へのコミットや、大学を作るということであれば、企業の協力も得られる可能性が高くなるだろうから、その辺りをしっかりとお願いしていくとよいと思うとのことでした。

なお、今回の自身の意見は、こうしたことが懸念されるのでこういう方法がよいと思うというものであり、こうでなければならぬというものではないため、様々な制約の中で進められているかと思うので、岐阜市の方でしっかりと検討いただければよいとのことでした。

以上です。

○杉山委員長

ありがとうございました。それでは、先ほど少しまとめさせていただきましたが、全体としてはかなりプラスアップされてきたという認識でよろしいでしょうか。その中で、今日頂いた意見でまた少しプラスアップしてもらい、そして市民からの声を頂くという方向でよろしいでしょうか。（異議なし）

それでは、そのような形で進めてまいります。パブリックコメントを頂いた後、また私どもに帰ってきますので、その後、具体的な検討を進めていくことになります。一旦、委員会はお休みの状態になりますが、引き続きお考えいただくとその次の議論も活発にできるかと思いますので、どうか引き続きよろしくお願いします。

それでは時間になりましたので、これで第3回の委員会を閉じたいと思います。事務局にお返しします。

○事務局（小川総合政策課大学改革推進室主幹）

本日は、活発なご議論をありがとうございました。頂いたご意見を踏まえ、基本計画の決定に向けて進めてまいりたいと思います。

次回の会議は年明け以降を予定していますが、時期が決まりましたら事務局より日程調整のご連絡をいたしますのでよろしくお願いします。

それでは、以上で本日の会議を終了します。お忙しい中ありがとうございました。